

クイーンズランド州スカラシップを通じて手に入れた一生の宝物

岡部美優

1. はじめに

この度、クイーンズランド州スカラシッププログラムを通じ、派遣していただきました岡部美優と申します。

今回、3週間弱という短い留学期間でしたが、毎日が新しい発見に溢れており、人生の中で最も充実した期間となりました。この場をお借りして、今回のプログラムをサポートしてくださった埼玉県国際課の方、一緒に留学期間を過ごしたスカラシップ生、両親、現地の高校の皆さんをはじめすべての関係者の方々に感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

そこで今回は、私がこのプログラムを通じて学んだことを、3つの点に分けて紹介させていただきます。

2. Yeppoonについて



Yeppoonは、クイーンズランド州東部の海岸沿いの町で、南回帰線の近くに位置しています。

このYeppoonは、日本から飛行機を2回ほど乗り継ぎ、最も近い空港であるロックハンプトン空港から車で1時間弱ほどの場所です。のんびりとした小さな田舎町で、高校から10分ほど車を走らせるとメインビーチ、反対方向へ行くと山といったように、雄大な自然を楽しむことができます。

3. Yeppoon State High Schoolについて

私たちスカラシップ生は、滞在期間中、約2週間ほどYeppoon State High Schoolという公立高校に通い、様々なことを学んでまいりました。

毎日、バディーという日本語クラスの生徒が、日本人1人につき2人ほどつき、そのバディーの授業に参加する、という形を取っていただきました。

1日70分4コマ授業で、2時間目と3時間目の間にAMbreakがあり、3時間目と4時間目の間にPM breakがありました。お昼ご飯もバディーと一緒に食べたのですが、現地の大勢の高校生に囲まれていたため、最初は少し緊張していました。しかし、積極的に話すよう心がけたところ、最終的にはその時間が一番楽しみになるほどまでになりました。そのため、そこで英語でのコミュニケーション能力が大きく伸びたように感じました。

また、私が実際に授業を受けてみて感じたことは、生徒の自由と主体性を尊重しているということです。

ほとんどの授業は挙手制ではなく、思ったことがあれば先生と対話するように発言をする、といった形を取っていたり、わからないことがあれば話し合いながら解決する、といった形で進められ、長い間日本の教育を受けてきた私にとってはとても新鮮なものでした。日本人が想像するような厳しい「校則」というものは存在しないため、個々のアイデンティティを尊重しているのがとても素晴らしいと思いました。そのため日本の学校は、とてもルールに縛られているのだな、と改めて実感しました。そのため、個人を尊重してくれるオーストラリアの学校を羨ましく思いました。

4. 埼玉親善大使としての活動

今回私たちは、この留学期間中、「埼玉親善大使」に任命していただき、オーストラリアの現地の文化を学ぶ、ということとともに、埼玉の魅力についても伝える、といった活動をしてまいりました。

今回、埼玉親善大使として行なった活動は主に2つあります。

1つ目は、スライドを用いた埼玉の紹介です。

私は、岩槻人形、それに関連して日本の伝統的な祭りであるひな祭りについて、そして埼玉の特産品について紹介しました。

Yeppoon高校はもちろん、滞在中に訪れた小学校や私立の女子校でも発表の機会を設けていただきました。思った以上に埼玉や日本について知っている人が多い印象でしたが、発表をした後により興味を持ってもらえたようでとても嬉しかったです。

2つ目は、インスタグラムを活用した留学の様子発信です。

今回私は、自身のインスタグラム(@m1y0u_333)において、留学中の様子を随時発信しました。これは、この留学を通じて感じたことを、埼玉県とオーストラリアの懸け橋として、より多くの人に知ってもらうことを目的としました。より多くの人に、より効果的に発信することができる手段であったため、多くの人が、興味を持って私の投稿にアクションをおこしてくれていたため、成果が得られたのではないかと思います。

5. おわりに

私は今回の留学を通じて、身に付けたい力が2つありました。それは、「さまざまな人と関わり協力する力」「失敗を恐れず何事にも挑戦する力」です。

留学前は、楽しみもありましたがやはり初めての海外、ということもあり、不安でいっぱいでした。「うまくやっていけるだろうか」、そんな心配がずっと消えませんでした。

しかし、実際に行ってみると、そんな心配は杞憂であったことはすぐにわかりました。現地の方々はみんなとても優しく、あたたかく私たちを迎え入れてくれました。ここまで人のあたたかさを感じた3週間は私にとって初めてのものでした。

今回、一緒に派遣されたスカラシップ生は以前より増え6人になりましたが、留学前から積極的にコミュニケーションをとり、さまざまな面で協力しあって来ることができました。学年もバラバラで、出会うことのなかったかもしれない6人であったわけですが、最終日には最高の仲間だったな、と思うまでになりました。

また、このプログラムに挑戦することをはじめとしてさまざまなことに挑戦しました。

今回現地では、私の興味分野であり探究活動をしていることもあり、「宇宙教育ワークショップ」をYeppoon高校で開催させていただきました。これは、応募の時点で私がこのプログラムにおいてメインで行いたいと思っていたことであったため、これを実施するにあたり、私はさまざまな挑戦をしました。現地の高校への交渉はもちろん、さまざまな機関にコンタクトを取るなど、失敗もありましたが結果的には成功に終わることができました。

これに加えて、私がこの留学期間中に手に入れられたものとして、人との繋がりがあります。

ありきたりな話になってしまいますが、今回の留学で、さまざまな人と関わり、繋がりを作ることができました。ホストファミリーはもちろん、現地の高校生など、もしかしたら一生出会うことのなかった人たちにたくさん出会うことができました。別れの時は、つらすぎて号泣してしまいましたが、みんなが「泣かないで」とあたたかいハグをしてくれたのはとても心に残るものでした。また、ホストファミリーからの手紙には「いつでも帰っておいでね」という言葉と共に、Your Australian familyと書いてあり、思わず涙を流してしまいました。人との繋がりはこんなにもあたたかく、素晴らしいものだ改めて実感することができました。



最終日にホストファミリーと
ケーキを作ってもらいました

それに関連して最近あった感動的な出来事は、Yeppoon高校で初日にバディーになってくれた子が、今度は埼玉ヘスカラシップ生として私の学校に留学に来てくれたのです。運命的な再会

に、胸が熱くなったとともに、世界中に繋がりががあると、このようなこともあるのだなと強く感じました。

このように、私はこの留学を通じて、身に付けたい2つの力を大いに伸ばすだけでなく、さまざまな新しい発見ができました。充実していて一瞬のように感じられるほど、短かった留学生活。一生忘れることのできない、思い出のたくさん詰まった高校1年生の夏になりました。

改めて、このような機会を与えてくださり、関わってくださったすべての人に感謝申し上げます。この経験を活かし、未来に貢献できるように努力し続けていきたいと思います。本当にありがとうございました。



最終日にスカラシップ生みんなで



Capricorn cavesとcooberie parkでのコアラの抱っこ



Great Keppel Islandにも連れて行っていただきました
信じられないほど綺麗な景色ばかりでした